

「あおぞら絵画遠足 ～日本を描きに出かけよう！～」 の開催を終えて

大森 春歌 (芸術専門学群 1年)

「あおぞら絵画遠足」は、皆で絵を描きに出かける企画です。4月下旬から企画を練り、9月に1回目の開催にこぎつけました。今回は、スケッチブックを携えた17人ものアート好きが全国から京都に集まりました。そもそもこの企画は、私が高校1年生の時に始めたスケッチ会を発展させたもので、全国各地に進学した当時のメンバーが各々仲間を誘い、全国規模での開催が実現しました。

写生会場となったのは哲学の道、南禅寺、琵琶湖疏水の3つ。1泊2日の慌ただしい日程の中ひたすら歩き、ひたすら描いた密度の濃い2日間でした。

開催の流れ

1日目は、午前10時に京都駅に集合し昼食後、哲学の道へ。ここでは初対面のメンバーを4グループに分け、共同制作として1つの作品を作り、親睦を深めました。短い時間ではありましたが個人作品も描き、普段とは違う風の中で描くことの気持ち良さを誰もが感じてくれたようでした。また、夕食は近くの京料理店を貸し切り、美食を堪能しながら、各大学の話や出身地についての話に花を咲かせました。制作環境の違う仲間との情報交換は新鮮で、楽しい時間となりました。

2日目は朝から南禅寺で庭園見学後、水路閣をスケッチしました。あいにくの雨でしたが、むしろ雨に濡れた緑がお寺の茶色に映えて美しかったです。お寺の規則上、水を使えなかった分、ペンやクレヨン等を使用した色鮮やかな作品が仕上がりました。

そして最後の写生地は琵琶湖疏水。台風の影響で激しく流れる疎水を横目に、どこまでも続く線路の上で思い思いに最後の京都を切り取りました。最後は鴨川のほとりで共有も行い、慌ただしくも充実した2日間は幕を閉じました。

作品の共有

また、この企画のメインイベントは、1日目の最後に行ったゲストハウスでの作品共有タイムでした。描いて終わりではなく、自分と違う視点や表現方法を知ることが非常に重要です。まずは各班の共同制作を発表しました。作品を繋げるとパノラマのようになる班、パラパラ漫画のように視点をずらして描いた班、コラージュ作品の班など、どれも個性が光った素敵な仕上がりででした。班ごとに作品をつないだ上で一言ずつ発言していく場面では、意外な制作意図や制作中の面白いエピソードも飛び出し、その場は終始笑いや感嘆の声に包まれました。

更に盛り上がったのが、個人の作品を机いっぱい並べ



哲学の道での共同制作

鑑賞し、隣の作品に一言コメントを贈り合った場面。事前に配布した名札の裏にメッセージカードを入れておき、そこに記入してもらいました。このカードを受け取る際、参加者から溢れた笑顔と感謝の声が強く印象に残っています。自分の作品に関する共感や好意的な言葉を他人から直接もらうというのは、やはり制作者にとって嬉しいものです。そのカードを読んだ皆が笑顔になる姿を見て、この企画を開催してよかったと感じました。

遠足を終えて

このように他県の美大生と一緒にスケッチをし、作品を共有する機会というのはなかなかないと思います。開催に至るまでは、週1回の会議やスケジュール調整、宿や飲食店の手配、参加者集め、お寺の写生許可…等々に追われ、直前までバタバタしていました。なんとか開催にこぎつけたものの、実際は不安が大きかったです。しかしながら開催を終え、普段と違う環境で制作に向き合い、同志と交流し刺激を受ける場を提供できたことは大きな意味があったと感じました。自分自身も多くの素敵な人との出会いがありましたし、純粋に制作を楽しむこともできました。移動中に見た、17人が肩から画材をぶら下げてぞろぞろと並んで歩く姿が、非常に特殊かつ素敵な光景で今でも忘れられません。そのような場を提供できたことにやりがいを感じると同時に、次回はよりパワーアップした企画を是非実現させたいと思っています。そしていつか展示会を開きその成果を発表したいと考えています。

今回は「日本を描きに出かけよう」という副題のもと、京都に出かけましたが、日本各地に出向き日本の風景を描き尽くしたら、ゆくゆくは「世界を描きに」なんて広がって、「宇宙を描きに出かけよう」というくらいまで続いていけばいいな、なんて夢を描いています。

ゲストハウスでの作品共有タイム



鴨川辺りでの最後の作品共有タイム